

### 39 幕政の安定・綱吉・正徳の治

#### 武断政治から文治政治への転換

家康・秀忠・家光の時代を通じて体制の確立に成功した江戸幕府は、反面で、多数の牢人の発生や「かぶき者」の横行など、新しい社会問題に直面することになった。「かぶき者」とは、自力救済の精神や集団的な武力行使を正当だと考える中世的な意識をもち、異様な風体で市中を歩きまわって自己を誇示した一群のことをいう。

徳川家綱が将軍となった1651年、兵学者由井正雪はその例である。

儒教的徳治主義

将軍	実力者	政治	事件
4代家綱	会津藩主 <b>保科正之</b> 松平信綱 晩年大老 <b>酒井忠清</b> 下馬将軍	<b>文治政治</b>  ② <b>末期養子の禁</b> を緩和 →藩主が死亡前後に急に願い出た養子のこと。大名が改易されると家臣たちは失業して、牢人となる。 この増加が社会不安。 ③ <b>殉死</b> の禁止と人質の廃止 殉死の禁止によって、主従関係が個人的なものでなく、大名家と家臣とのあいだで永続するものであることが明示された。	<b>文治政治転換の契機</b> *① <b>慶安</b> 事件1651 <b>由井正雪</b> →牢人の不満結集→幕府転覆を謀る未遂 共謀： <b>丸橋忠弥</b>  ④ <b>明暦</b> の大火1657 振袖火事とも呼ばれる。翌年幕府直属の <b>定火消</b> が組織。

#### 経済政策

17世紀後半には、全国的な広がりをみせつつあった商品経済に対応する政策も打ち出された。具体的には、江戸の商人 **河村瑞賢** による東廻り・西廻り海運ルートの整備、相続による田畑の細分化を防ごうとした分地制限令の発令、幕府財政の安定化をめざした大規模な幕領検地の実施、などをあげることができる。

#### 史料研究

『**天和** 令』

- 一 文武忠孝を励し、礼儀を正すべき事。
- 一 養子は同姓相応の者を撰び、若之無きにおみては、由緒を正し、存生の内、言上致すべし。五捨以上十七以下の輩末期に及び養子致すと雖も、吟味の上之を立つべし。縦、実子と雖も筋目違たる儀、之を立つべからざる事。

附、殉死の儀、弥制禁せしむる事。

天和三年七月廿五日

『御触書寛保集成』

問 文武弓馬から文武忠孝への変化が重要 1687年、**大嘗祭** が221年ぶりに復活したことが早稲田文化構想で出た。

#### 5代将軍綱吉の登場

将軍	実力者	政治	事件
5代綱吉	大老 <b>堀田正俊</b> <b>松平信綱</b> 側用人 <b>柳沢吉保</b>	元 <b>館林</b> 藩主 <b>学問奨励</b> <b>木下順庵</b> に師事 ①孔子廟を湯島に移し聖堂とし→ <b>湯島聖堂</b> とし、林家の家塾を <b>聖堂学問所</b> として整備した。 大学頭： <b>林信篤</b> 天文方： <b>渋川春海</b> 歌学方： <b>北村季吟</b> 暦を <b>貞享暦</b> に (従来の宣明暦に誤差) ② <b>生類憐みの令</b> 1685 i 捨て犬捨て <b>牛馬</b> の禁止 ii 犬小屋の設置 iii 綱吉は <b>戌</b> 年 IV 綱吉の母桂昌院の影響強し = 真言宗 <b>隆光</b> に帰依した影響で出した。  <b>朝幕協調</b> <b>大嘗祭</b> 復活 <b>賀茂葵祭</b> 復活 <b>禁裏御料</b> 増加 <b>財政悪化</b> <b>明暦</b> の大火1657後の江戸城再建・市街地復興が原因で財政悪化 寺社造営費用で財政悪化 上野【 <b>寛永寺</b> 】建立 【 <b>護国寺</b> 】建立 綱吉時代後半は、インフレと悪政で重大な危機を招く。	1701 * <b>赤穂</b> 事件 殿(浅野長矩)の御乱心のおかげで家臣が大迷惑を被って、挙げ句の果てに地元では名君の誉れ高く、農民たちから慕われていた吉良上野介 ( <b>高家</b> ) を惨殺した赤穂事件がおこったのも綱吉の時だった。

**服忌** 令1684

近親者に死者があった時に、喪に服したり忌引をする日数を定めた。穢れ観念を発生させ、「えた」などの差別意識が醸成された。

### 財政難の進行と元禄金銀

要因として、収入面では、佐渡金山・生野銀山など金銀山枯渇による鉱山収入の激減、長崎貿易に対する制限などによる貿易利益の減少、という点を、また支出面では、明暦の大火後の江戸城と市街の再建に巨額の費用がかかったこと、多くの寺社の修理・造営がおこなわれるなど綱吉が放漫財政を続けたこと、という点を指摘することができる。

全体として、**自給自足を建前とする幕藩体制が急速な経済発展に揺さぶられ始めた**点にも注意しておきたい。


**NOTE 貨幣改鑄【萩原重秀】**勘定吟味役

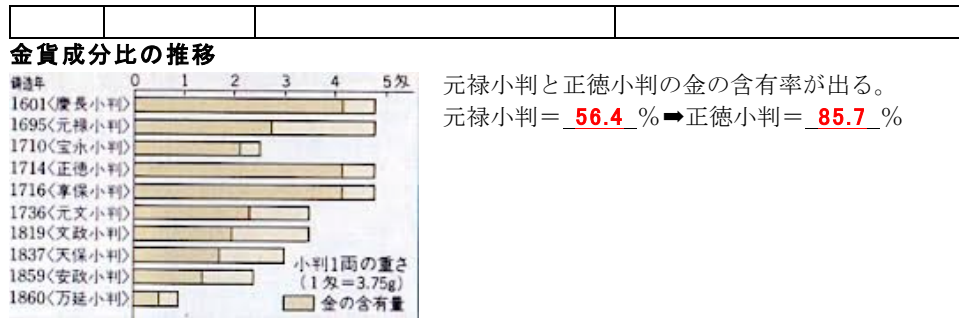
金の含有量を減らし幕府の収入とした。

(従来の**慶長小判**の6割程度しかない**元禄小判**発行)

50万両の**出目**(差額)を出し、一時的に幕府財政潤う。⇒インフレ発生

### 正徳の政治

将軍	実力者	政治	事件
6代 <b>家宣</b> 7代 <b>家継</b> が出た	朱子学者 <b>木下順庵</b> の推挙で侍講となる <b>新井白石</b>  側用人 <b>間部詮房</b>	<b>正徳の治</b> ①生類憐みの令廃止 ② <b>閑院宮</b> 家創設 (朝暮関係の融和策) <b>NOTE</b> 3つの宮家を継げない皇子・皇女の多くが出家、将軍は天皇に任命される。ながら天皇に権威が必要。 ③ <b>通信使</b> の待遇 <b>簡素化</b> 日本国大君を <b>日本国王</b> に <b>NOTE</b> 経費の削減と同時に將軍權威を高めることが狙い。 ④貨幣改鑄 新井白石は正徳の治で、元禄小判を改め、もとの慶長小判と同質の <b>正徳小判</b> を鑄造した逆に市場の混乱招く。 ⑤ <b>長崎新令 1715</b> ( <b>海舶互市新例</b> ) 例の字 目的は「 <b>金銀の海外流出を防止するため</b> 」金だけでは× 清船 = <b>30</b> 隻・銀 <b>6,000</b> 貫 オランダ船 = <b>2</b> 隻 銀 <b>3,000</b> 貫	白石の政策は学者である主観では重要だったが、必ずしも変動する社会の現実に即応した性格をもつものとはいえなかった。  



### 新井白石の著書

教科書では元禄文化だが、この機会に覚えたい。

「**読史余論**」 = 江戸幕府の成立を正当化した歴史書。

「**折たく柴の記**」 = 自叙伝。

「**西洋紀聞**・**采覧異言**」 = 屋久島に潜入したイタリア人宣教師 **シドッチ** を尋問してまとめた。

この「西洋紀聞」と福沢諭吉の「西洋事情」の正誤問題がある。

### 藩政刷新

国内における戦乱が終息し、清による中国支配も安定して平和が継続するなかで、諸藩においても支配の充実や藩主の権力強化が図られた。

藩主と儒者の組合せは出る。

藩	藩主	儒学者	儒学
会津藩	<b>保科正之</b>	<b>山崎闇斎</b>	<b>朱子学</b>
岡山藩	<b>池田光政</b>	<b>熊沢蕃山</b>	<b>陽明学</b>
水戸藩	<b>徳川光圀</b>	<b>朱舜水</b>	<b>中国の儒学</b>
加賀藩	<b>前田綱紀</b>	<b>木下順庵</b>	<b>朱子学</b>

徳川光圀が **彰考館** を創設し『**大日本史**』編纂事業を行ったことが出る。

**花鳥教場** は熊沢蕃山の私塾である。 **閑谷学校** = 郷学

